**2011 年 3 月 4 日改訂（第５版）
*2008 年 11 月 26 日改訂
医療機器承認番号　21300BZZ00199

機械器具　７　内臓機能代用器

高度　自動腹膜灌流用装置（JMDN コード:11226000）

特管　マイホームぴこ®

【警　告】

＜使用方法＞

・使用中は動作状態及び患者に異常がないことを監視し、異常が認められた場合は、直ちに使用を中止すること。
［本品は患者の状態を監視する機能を有していない。］
・以下の内容で患者に指導を行うこと。
・本品の周辺で携帯電話、無線機器、電子レンジ、電磁調理器等、電磁波を発生する機器を使用する場合は、できるだけ離れた位置で使用すること。また、これらの機器とは別系統の電源を使用し、確実に接地を行って使用すること。
［誤作動が生じることがある。］
・治療中に液漏れや透析液と接続していないチューブのクランプが開いたままであった場合は、直ちに治療を中止し、速やかに医療機関に連絡すること。
［腹膜炎の併発や腹腔内にエアーが混入する可能性がある。］

【禁忌・禁止】

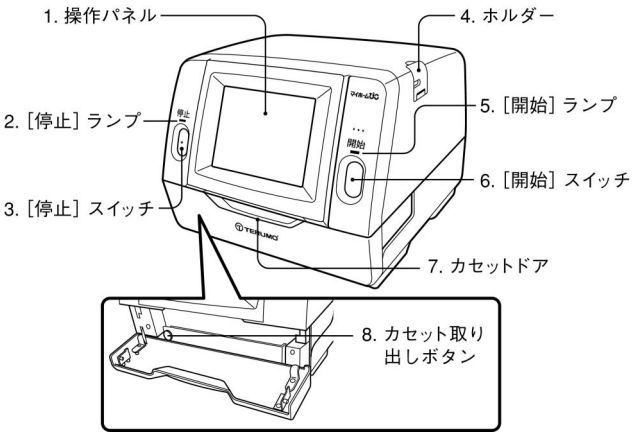
＜使用方法＞

・本品は気密構造ではないので、活性ガス（消毒用ガスも含む）環境やネブライザー等の噴霧を行っている環境や多湿環境等での使用、保管はしないこと。
［装置内部の電子部品に影響を与え、損傷や経時劣化により、本品が故障する原因となる。］
・以下の内容で患者に指導を行うこと。
・本品に床への落下等による衝撃が加えられた場合は、使用しないこと。
［本品の外観に異常が認められない場合でも、内部が破損している可能性があるため、点検確認が必要である。］
・本品に異物や液体が入らないように注意すること。もし入り込んだ場合、そのままの状態で使用しないこと。
［故障の原因となる。］
・引火性のある環境では使用しないこと。
［引火又は爆発の誘因となる可能性がある。］

【形状・構造及び原理等】

＜構造図＞

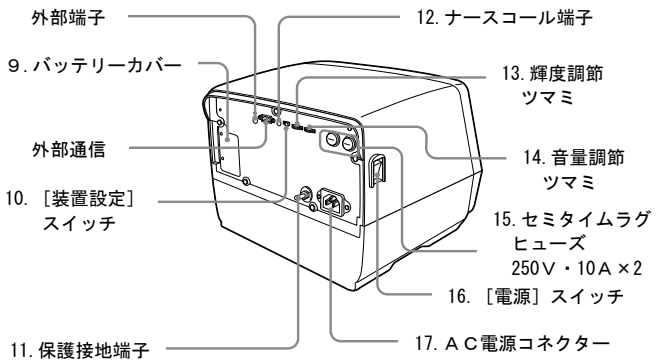
●正面



NO.	名　称	機　　能
1	操作パネル	操作手順や治療内容等を表示する。
2	［停止］ランプ	停止中に点灯し、トラブル発生時に点滅する。
3	［停止］スイッチ	治療を一時中断するときや、トラブル発生時の警報音（ブザー）を止めるときに押す。
4	ホルダー	治療の準備や、治療を一時中断するときに、腹膜ラインのコネクター部をかける。
5	［開始］ランプ	治療の準備中や治療中に点灯する。
6	［開始］スイッチ	治療の準備や、治療を始めるとき、治療を再開するときに押す。
7	カセットドア	専用ＡＰＤ回路のカセットを中に入れる。安全のため、治療の準備中や治療中には開かない機構になっている。
8	カセット取り出しボタン	専用ＡＰＤ回路のカセットを取り出すときに押す。

取扱説明書を必ずご参照ください。

** ●背面



NO.	名　称	機　　能
9	バッテリーカバー	
10	［装置設定］スイッチ	装置設定（マイホームぴこの設定）を変更するときに切り替える。「入」の位置にして電源を入れると、装置設定（マイホームぴこの設定）が可能になる（通常は「切」の位置にして使用する）。
11	保護接地端子	より安全に使用するため、アース線を接続する端子(必要なときに使用)。
12	ナースコール端子	警報発生時に約１秒間の接点ＯＮ信号を出力する。
13	輝度調節ツマミ	画面の明るさを調節する。右に回すと明るくなり、左に回すと暗くなる。
14	音量調節ツマミ	音声ガイドとスイッチ操作音の音量を調節する。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなる。
15	セミタイムラグヒューズ ２５０Ｖ・１０Ａ×２	
16	［電源］スイッチ	電源を入／切する。
17	ＡＣ電源コネクター	ＡＣ電源ケーブルを接続する。

＜原理＞

本品は、新しい透析液を患者腹腔に注液、腹腔内貯留後の透析液を排液タンクへ排液するために使用される装置である。専用ＡＰＤ回路をセットすることにより、透析液の送出を行うポンプ、また、注液の際に送液中に設定温度に加温する加温器として機能する。本品の送液ポンプ部は、専用ＡＰＤ回路ポンプ部と組合せて動作する。専用ＡＰＤ回路ポンプ部の外側の空気圧を変動させることによって、専用ＡＰＤ回路ポンプ部の体積変化を発生させ、透析液を送出する。ポンプ機能による送液量は、圧力センサで測定した圧力値と既知の空気回路容量、さらに、温度による空気圧力の変動について補正を加えて算出する。これをもとに送液速度をポンプ部の動作頻度と回数で制御する。空気圧の制御は、エアーポンプ及びバルブで圧力制御したエアータンクで行う。専用ＡＰＤ回路中の透析液の流れ方向を制御するために流路切換は、本品のモーターとモーターが駆動するカムシャフトにてクランプを上下動作させ、専用ＡＰＤ回路流路切換部の流路を押圧/解除することにより行う。加温機能は、本品のヒーターが専用ＡＰＤ回路加温部を介して間接的に透析液の加温を行う。専用ＡＰＤ回路加温部内の流路を透析液が通過しながら、設定温度に加温された後、患者腹腔に送られる。上記のいずれの動作においても、本品が直接透析液に触れることはない。

［電気的定格］

交流電源　　定格電圧：100V
　　周波数　：50-60Hz
　　消費電力：800VA

［機器の分類］

電撃に対する保護の形式による分類：クラスⅠ機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類：ＢＦ形装着部

** 本品はＥＭＣ規格 IEC 60601-1-2:2001 に適合している。

【使用目的、効能又は効果】

＜使用目的＞

本品は、腹膜透析患者の腹膜透析液の交換を自動的に行う装置である。

【品目仕様等】

注排液方式：エアー圧力方式
注液速度　：50～250mL/分（50mL/分単位）
　　（※※）
排液速度　：50～150mL/分（50mL/分単位）
　　（※※）
計量方式　：圧力・容積換算方式
温度設定範囲：33～38℃
温度精度　：設定値±2℃以内
注排液精度　：±3%
圧力精度　：±0.13kPa
注液容量　：0～3000mL（50mL 単位）
サイクル数　：0～99 回（1 回単位）
貯留時間　：0～720 分（1 分単位）
警報機能　：停電警報、電圧低下警報、漏液警報、温度警報、気泡警報、エアーリーク警報、閉塞警報、残液警報、開始忘れ警報、再警報、外気温警報
付加機能：
・音量調節機能（音声ガイドの音量を調節することができる。）
・輝度調節機能（表示器の明るさを変更することができる。）
**・設定機能（タッチパネルの操作により、下記の治療設定、装置設定が可能。）
治療設定項目:『治療パターン』、『初期排液量』、『初期注液量』、『貯留時間』、『サイクル数』、『タイダール量』、『タイダール除水量』、『最終注液量』、『最終濃度変更』、『透析時間』、『総透析液量』、『注液量』、『総除水量』、『タイダール中間排液』、『治療開始時刻』、『コンディショニング間隔』、『終了予定時刻』
装置設定項目:『時計』、『警報音量』、『警報音程』、『スイッチ操作音』、『治療終了通知音』、『目覚まし時刻』、『ガイド』、『外部Ｉ／Ｆ機器』、『コントロール注液』、『再排液』、『余った透析液排出』、『プライミング保持機能』、『マニュアル除水入力』、『排液速度』、『注液速度』、『注液温度』、『治療履歴』、『エラー履歴』、『停電待機時間』
・回路セット確認機能（専用ＡＰＤ回路のカセットをカセットトレイにセットしたとき、カセットの有り/無しを自動的に検出する。）
・回路プライミング機能（専用ＡＰＤ回路内のプライミングを行う。）
・プライミング保持（プリプライミング）機能（※）（プライミング終了後、「電源」スイッチを切断した場合、再度電源投入したときに、治療開始画面から継続開始できる。）

・行程パス機能（エラー停止時、又は、一時停止中に次の工程に移る。）
・治療中止機能（治療停止中、又は、警報停止中に治療を中止する。）
・モニター機能（画面に治療内容、治療結果、透析状態の表示をする。）
・ガイド機能（※）（音声又は画面により、操作方法、警報内容及び警報復帰手順のガイドを行う。警報消音後、音声ガイド出力中に復帰操作を受け付けた場合には、ガイドを中断して次工程に移る。）
・外部警報機能（ナースコール機能）（ナースコール端子に接続した警報装置に、警報音出力と同期して接点の開閉信号を出力する。）
・再排液機能（※）（治療中、最後の排液が終了したとき、「開始」スイッチを押すことにより、再び排液を行う。）
・余った透析液の排出選択機能（※）（透析終了状態において、余った透析液排出の実行／非実行を選択する。）
・マニュアル除水の入力（昼間の治療記録入力）機能（※）（マニュアル交換時の治療記録の入力ができる。）
・体重・血圧入力機能（※）（体重、血圧値の手動入力ができる。）
・タイダール中間排液機能（※）（設定されたサイクル数のときに、完全排液を行う。）
・ヒストリー機能（エラー履歴、治療履歴を記憶、表示する。）
・コントロール注液機能（※）（実際に排液した量に応じて、注液量をコントロールする。）
（※）は設定機能により有効、無効の選択ができる。
（※※）は出荷時に固定値とする。

環境条件
・使用条件：周囲温度　10～40℃
　　相対湿度　30～85%RH（ただし、結露なきこと）
　　周囲気圧　700～1060hPa

＊【操作方法又は使用方法等】
１．ＡＣ電源ケーブルをＡＣ電源コネクターに接続する。
２．［電源］スイッチを入れる。
３．治療設定の確認をして、操作パネルを操作する。
＊４．カセットドアを開け、専用ＡＰＤ回路のカセットをカセットトレイにセットする。
注意：カセットが入れにくい場合は、カセット取り出しボタンを押しながら入れること。
５．操作パネルを操作しながら、専用ＡＰＤ回路のセットアップを行う。
６．［開始］スイッチを押して、専用ＡＰＤ回路のプライミングを行う。
７．専用ＡＰＤ回路の腹膜ラインのクランプを閉じ、キャプディールトランスファーチューブセット（以下トランスファーチューブセット）に接続する。
８．専用ＡＰＤ回路の腹膜ラインのクランプと、トランスファーチューブセットのローラークランプを開ける。
９．［開始］スイッチを押して、腹膜透析を開始する。
１０．再排液機能をありとした場合は、最後の排液が完了したら、［開始］スイッチを押して再排液を行う。なしとした場合は、次の工程に移る。
１１．腹膜透析が終了後、余った透析液の排出機能を手動とした場合は、操作パネルを操作して、排出を行う。
１２．トランスファーチューブセットのローラークランプと専用ＡＰＤ回路の腹膜ラインのクランプを閉じ、トランスファーチューブセットを切り離す。
１３．専用ＡＰＤ回路の注液ラインのクランプを閉じて、操作パネルを操作する。
１４．治療結果を確認し、数値を記録する。
１５．カセットドアを開け、専用ＡＰＤ回路のカセットを取り出す。
１６．排液と使用済みの専用ＡＰＤ回路の廃棄処理を行う。
１７．［電源］スイッチを切る。

詳細については取扱説明書を参照すること。

＜使用方法に関連する使用上の注意＞
＊・腹腔内にエアーが認められる場合には、装置の設定画面にて、初期排液から始まる条件（初期排液量：50mL）に設定すること。［プライミング時に接続チューブや回路内から抜けきれなかったエアーが患者の腹腔内で処理しきれず、残存する可能性がある。］
・以下の内容について確認の上、患者に指導すること。
・お子さまやペットのいない部屋で治療を行うこと。［誤操作の可能性がある。］
・人の出入りがない、清潔で明るい部屋で治療を行うこと。［落下菌が侵入し、腹膜炎を併発する可能性がある。］
・治療中は窓やドアを閉め、冷暖房器具を一時（接続作業が終わるまで）止めること。［落下菌が侵入し、腹膜炎を併発する可能性がある。］
・透析液を寒い場所に保管していた場合は、あらかじめ装置を使用する場所に透析液を置いておくなどして、透析液を使用する場所の温度になじませてから開始すること。［装置内で透析液が加温される際の温度差が大きいと、溶存エアーが発生しやすくなる。］
＊・透析液・装置の保管場所が暑かった場合は、あらかじめ治療環境温度になじませてから開始すること。［透析液温が上がり過ぎ、温度警報を発報して治療を継続できない可能性がある。］
＊・カセットが入れにくい場合は、カセット取り出しボタンを押しながら入れること。
＊・カセットドアを閉めるときに、チューブをかみ込まないこと。また、使用時に、カセットから出ているチューブに折り曲げるような負荷を加えないこと。[閉塞の原因となる。]
＊・治療中は、チューブを引っ張るような力を加えないこと。［気泡センサ部分のチューブが変形し、気泡を誤検知する可能性がある。］
・ホルダーに無理な力をかけないこと。［装置が破損する可能性がある。］
・透析液の接続作業を、装置の上で行わないこと。［透析液が装置内に入ると、故障の原因となる。］
・装置内でカセットをリフトアップする前に透析液バッグのクリックチップを折らないこと。［プライミング中に腹膜ラインから透析液が吹きこぼれたり、治療中に透析液が不足する可能性がある。］
・治療準備（プライミング）及び治療を開始する前に、すべての接続が正しいことを確認すること。［予定どおりの治療ができない可能性がある。］
・治療準備（プライミング）を開始する前に、おなかのチューブ及び腹膜ラインを接続していないことを確認すること。［予定どおりの治療ができない可能性がある。］
＊・腹膜ラインをホルダーにかけるときは、腹膜ラインのコネクターのキャップを絶対に外さないこと。［落下菌が侵入し、腹膜炎を併発する可能性がある。］
また、腹膜ラインチューブを装置より上部に置いたり、束ねたまま装置に立てかけたりしないこと。［腹膜ラインが透析液で十分満たされない可能性がある。］
・透析液と接続しないチューブのクランプが開いたまま、治療準備（プライミング）及び治療を開始しないこと。［腹膜炎の併発や腹腔内にエアーが混入する可能性がある。］

＊・余った透析液の排出動作時、使っていない注液ラインのクランプを開放したり、空になった透析液バックを先に外さないこと。［余った透析液の排出動作が終わらない可能性がある。］
・ミニバッグ付専用ＡＰＤ回路（マイホームぴこセット（ミニバッグ付））を使用する場合、治療準備　（プライミング）終了後、腹膜ラインにＴＳＣＤトランスファーチューブを接続する際は、腹膜ラインのクランプが閉じていることを確認すること。［クランプが開いていた場合、腹膜ラインから透析液が吹きこぼれる可能性がある。また、浮遊菌が侵入し、腹膜炎を併発する可能性がある。］
・治療中はカセットドアを開けないこと。［予定の治療ができない。］
＊・注液中に一時停止／エラー停止した場合は、できるだけ早く治療を再開すること。また、腹膜ラインの折れ、詰まり等による過度の注液速度低下が発生した場合は、できるだけ早く腹膜ラインの閉塞要因を取り除くこと。［腹膜ラインの液温度が低下し、透析液を冷たく感じることがある。］
・治療終了後、専用ＡＰＤ回路（マイホームぴこセット）ラインのクランプがすべて閉じていることを確認すること。［透析液、排液の流入、流出が起こる可能性がある。］
＊＊・治療記録の確認を終了する前に、おなかのチューブのローラークランプを閉じた後、専用ＡＰＤ回路（マイホームぴこセット）から外すこと。［透析液、排液の流入、流出が起こる可能性がある。］
・装置の故障や回復できないライン閉塞等が発生した場合は、本品及び専用ＡＰＤ回路（マイホームぴこセット）、透析液等の現品を保管の上、弊社担当者まで連絡すること。［原因が特定できず、再発の可能性がある。］
・本品は据え置き機器である。移動の際には必ず専用の梱包材を使用すること。［故障の原因となる。］

＊＊＊【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

＊＊・使用する専用ＡＰＤ回路（マイホームぴこセット）と、本品の設定項目で選択されているぴこセットが合っていることを必ず確認すること。［腹腔内にエアーを引き込んだり、注排液精度に影響を及ぼす可能性がある。］
＊＊・使用の前には日常点検を実施し、異常が認められた場合、直ちに使用を中止すること。
・添付文書及び取扱説明書を確認の上、使用すること。
・併用する医薬品及び医療機器の添付文書を確認後、使用すること。
・他の機器と併用するときは、影響の有無を確かめ、誤作動する場合には併用しないこと。
・本品には専用ＡＰＤ回路（マイホームぴこセット）を使用すること。
・以下の内容について確認の上、患者に指導すること。
・習熟した者以外は本品を操作しないこと。
・目の不自由な方が使用する場合は、指導を受けた介護者が、操作を行うこと。
・付属のＡＣ電源ケーブル以外は使用しないこと。また、他の機器には使用しないこと。
・本品はアース付きのコンセントを使用し、必ず接地すること。
・本品は定格電圧範囲内で使用すること。［電源電圧が定格を下回ると、動作が停止する可能性がある。］
・本品は屋内専用である。車等での使用は避けること。
・本品は精密機械なので、丁寧に取り扱うこと。［衝撃が加わったり、汚れたりすると、故障の原因となったり、予定どおりの治療ができない可能性がある。］
・各パラメータ設定を変更する場合は、開始前に設定値が正しいことを確認すること。［予定どおりの治療ができない可能性がある。］
・電源の入り切りを繰り返さないこと。［故障の原因となる。］
・使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないこと。［装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化が生じ、本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。］
・本品で使用される通信ケーブルやＡＣ電源ケーブルは、鉗子で挟んだり、針で刺したりしないこと。また、床等に這わせた場合はキャスター等で踏んだりしないこと。［ケーブル等が破損した場合、感電や火災の可能性がある。また、本品が有する機能や性能が得られない。］
・本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所や液体がかかる場所で使用しないこと。本品に液体（薬液や血液等）がかかった場合は、乾いた柔らかい布等で水気を拭き取ること。［本品が有する機能や性能が得られず、また故障の原因となる。］
・本品にはエアーを検知する機能が付加されているが、状態によってはエアーを検知できない可能性がある。治療開始前に、むきんエースの接合部等を必ず確認すること。［腹膜炎の併発や腹腔内にエアーが混入する可能性がある。］
・治療時には、腹腔と本品の高低差を30㎝以内にして使用すること。［注液、排液速度が遅くなり予定どおりの治療ができない可能性がある。］
・ミニバッグ付専用ＡＰＤ回路（マイホームぴこセット（ミニバッグ付））を使用する場合には、下記について注意すること。［透析液中のエアーがトラップされず、腹腔内に引き込まれる可能性がある。］
・本品は、必ずミニバッグ設置台上で使用すること。
・ミニバッグは、必ずミニバッグ設置台の固定ピンに取り付け、確実に取りつけられていることを確認してからミニバッグ設置台のカバーを閉じること。
・本品と腹腔の高さは、本品底面から0～30㎝であること。
・注液ライン、又は追加注液ラインに接続した透析液の入ったバッグは、なるべく装置より上に配置すること。［注液速度が遅くなり予定どおりの治療ができない可能性がある。］
・治療中は、一時停止をせずに立ち上がったり、歩いたりしないこと。［注液、排液速度が遅くなり予定どおりの治療ができない可能性がある。］
＊・治療を中断する場合は、治療中止の操作を行ってから、電源スイッチを切ること。また、プリプライミングの治療待機時には、液晶画面治療待機ボタンを押してから電源スイッチを切ること。［直接電源スイッチを切ると、装置は停電状態となり、中断・待機することができず、長時間放置すると、充電が不十分になり、停電時にバックアップ機能が働かない可能性がある。］
・本品は、停電時に安全に停止するためのバックアップ非常電源として、充電式バッテリー（ニッケル水素電池）を内蔵している。最初に使用する場合や、長時間使用しなかった場合は、使用前に３時間以上充電すること。［充電が不十分な場合は、停電時にバックアップ機能が働かない可能性がある。］
・ぬれた手で、本品に触れないこと。［感電する可能性がある。故障の原因となる。］
・操作スイッチ類（操作パネルの画面含む）は必ず指のはらで操作すること。［鋭利なペン先等で操作すると、破損することがある。］
＊＊・本品の分解、改造（表示部や可動部へのテープ留め等、機能や性能を阻害する行為含む。）、修理をしないこと。［本品の故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす可能性がある。］

**・ミニバッグ付のぴこセットを使用した場合に表示される「初期腹腔排液量」や「腹腔注液量」といった「腹腔」の名称の付いた液量は、「初期排液量」や「注液量」といった仕様の注排液精度で測定した実測値を基にして、ミニバッグの容量の影響を考慮に入れた計算値である。

・治療結果で表示される数値をノート等に記録する場合は、「総注液量」や「総除水量」といった、装置が実際に測定した液量を記録するのか、「総腹腔注液量」や「総腹腔除水量」といった、「総注液量」や「総除水量」の実測値から計算された数値を記録するのかを医師に相談すること。［誤診の原因となる可能性がある。］

*・本品はコントロール注液機能が付加されているが、治療状況によっては排液時、腹腔内に透析液が残り、設定注液量以上の透析液が腹腔内に溜まる場合がある。
多量の腹腔内残液が認められる場合には、医療機関の指示に従い、再排液機能の設定、設定注液量を減らす、カテーテルの位置確認や調整等の対応を行うこと。［腹部に膨満感や痛みを生じる可能性がある。］

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

＜貯蔵・保管方法＞

・水ぬれに注意し、日光及び高温多湿を避けて保管すること。
保管条件：周囲温度　-20～45℃
相対湿度　10～95%RH（ただし、結露なきこと）
周囲気圧　500～1060hPa
輸送条件：周囲温度　-20～60℃
相対湿度　10～95%RH（ただし、結露なきこと）
周囲気圧　500～1060hPa

［保管上の注意］

・本品は日光や紫外線等の強い光があたる場所に保管したり、長時間放置しないこと。［外装の変色や劣化が発生することがある。］
・振動、塵埃、噴霧下、腐食性ガス等の多い場所に保管しないこと。
・気圧、温度、湿度、風通し、塩分、イオウ分を含んだ空気等により悪影響の生じる可能性のある場所に保管しないこと。
・化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。

＜有効期間・使用の期限＞

・指定の保守、点検並びに消耗品の交換を実施した場合の耐用期間：６年（自己認証による）

**【保守・点検に係る事項】

・安全に使用するために、定期的に保守点検を実施すること。各点検で異常が認められた場合は、直ちに使用を中止し、弊社担当者まで連絡すること。

［保守・点検上の注意］

・使用前、使用後の清掃を行うこと。
・しばらく使用しなかった機器を再び使用するときは、使用前に必ず機器が正常にかつ安全に作動することを確認すること。
・アルコールやシンナー等の有機溶剤やポビドンヨードでは拭かないこと。［有機溶剤や使用可能な消毒液以外を使用した場合、本品の破損や故障の原因となる。］
・感染防止のため、定期的に消毒を行うこと。ただし、ガス消毒器等による本品の滅菌、消毒はしないこと。［故障の原因となる。］

**・消毒する際は、消毒液をガーゼ等に浸し、よくしぼってから本体を軽く拭くこと。その後、水又はぬるま湯を浸してよくしぼったガーゼ等で、速やかに拭き取ること。なお、希釈率はその製品の添付文書の記載に従うこと。使用可能な消毒液の例は以下のとおりである。
クロルヘキシジングルコン酸塩／ベンザルコニウム塩化物
・交換部品は指定部品以外は使用しないこと。
・点検終了後は、治療用の設定値に戻すこと。
・点検終了後は、点検用ＡＰＤ回路（マイホームぴこセット）内に残った水をできるだけ排出して、保管すること。
・以下の内容で患者に指導を行うこと。
・清掃するときは、必ず電源を切り、ＡＣ電源ケーブルを抜いてから行うこと。
・本品に透析液がかかったり汚れがひどい場合は、水又はぬるま湯を浸してよくしぼったガーゼ等で速やかに拭き取ること。
・ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。［故障の原因となる。］

［使用者による保守点検事項］

点検項目	点検時期	点検内容(概略)
使用前点検	毎回	外観の点検 電源投入時の点検 専用ＡＰＤ回路のカセット装着時の点検操作時の点検
追加注液ライン閉塞確認	１ヵ月に１回	画面に「追加注液ライン閉塞」が表示され、警報音（ブザー）が鳴ること
消音確認	１ヵ月に１回	警報音（ブザー）が止まること
排液ライン閉塞確認	１ヵ月に１回	画面に「排液ライン閉塞」が表示され、警報音（ブザー）が鳴ること
注液ライン閉塞確認	１ヵ月に１回	画面に「注液ライン閉塞」が表示され、警報音（ブザー）が鳴ること
腹膜ライン閉塞確認	１ヵ月に１回	画面に「腹膜ライン閉塞」が表示され、警報音（ブザー）が鳴ること
プライミング正常終了確認	１ヵ月に１回	プライミングが終了し､画面に｢準備完了」が表示されること
流量確認	１ヵ月に１回	１７５ｍＬ～２５０ｍＬであること
温度確認	１ヵ月に１回	設定温度に対して､＋２℃､－５℃であること。
気泡検出確認	１ヵ月に１回	画面に「気泡検知」が表示され、警報音が鳴ること
バッテリ動作確認	１ヵ月に１回	画面に「電源が切れました」が表示されること

※詳細については、取扱説明書の保守点検の項を参照すること。

［業者による保守点検事項］

・充電式バッテリは消耗品であるため、定期交換が必要である。購入後２年を目安に弊社担当者へ連絡すること。

保守点検事項	点検時期	点検内容
定期点検	1 年に 1 度を目安	専用治工具･測定器を使用した点検調整及び補修

【包装】

・１台/箱

＊【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者：テルモ株式会社

住　　所：東京都渋谷区幡ヶ谷２丁目４４番１号

＊電 話 番 号：0120-12-8195　テルモ・コールセンター

製 造 業 者：テルモ株式会社

、TERUMO、テルモ、マイホームぴこ、クリックチップ、キャプディール、むきんエース、TSCD はテルモ（株）の登録商標です。